

豊明市行政評価制度「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有・無
<input type="checkbox"/> 有		
<input checked="" type="checkbox"/> 無		

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	世代間交流・地域活動をいかした健康づくり事業の推進(健康づくりイベント)							
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	成人保健担当係長 岡田恵子
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健	コード	2 1 1
	項	健康			単位施策(中)	地域における健康づくり運動の推進	コード	2 1 1 2
					単位施策(小)	世代間交流・地域活動をいかした健康づくり事業の推進	コード	2 1 1 2 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	一般市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	全世代を対象として、楽しくふれあえるきっかけづくりとしてウォーキングやそれに関連するイベントを実施することで運動習慣の重要性への意識が高まる			
1-5 事務事業の内容	健康アクションプラン21の重点項目となっているウォーキングを中心とした健康づくりイベントを開催							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	運動習慣のない市民が運動を始めるきっかけとなるように、ウォーキングを体感し楽しさを家族全員で共有できる内容とした	ウォーキング推進グループと協働し市民の声を反映した内容とした		中高年男性(30歳から60歳)に肥満者が多いデータから対象をそこに置き、家族ぐるみで参加できるように設定した。また、PR方法は商工会、青年会議所、消防団、企業向けに働きかけた	
	平成19年度					
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	ウォーキングマップの利用者数		1,000(人)	2,000(人)	ウォーキングマップの配布により、マップの利用者数

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	250									
	人件費 c(千円)	10									
	合計コスト d(b+c)(千円)	328									
	単位コスト d/a(千円)	338									
	利用者当たり	1	当たり								

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【活動実績】ウォーキングイベント参加者100人、講演会参加者150人を計上 延べ250人 【直接事業費】事業委託料 国保からの補填(国保保健事業に該当) 雑費 10,000
【人件費】6,702,000×0.05=328,261

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	250(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	12.5(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価					
	平成18年度	体を動かすことに関心はあるが、実行に移せない市民にいかにかにアプローチするか? イベントスタイルプラスアルファ - を検討していく	運動習慣の推進に向けてはウォーキング単独の取組みに留まらず、他事行とのあいのりも検討していく	体を動かすことに関心はあるが、実行に移せない市民への動機づけとして実施。市民協働型の利点を生かし、その声を反映することでイベント内容が参加者の視点で検討実施することが可能となった	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			